

タイ環境学習キャンプ」特集～はじまってから20年⑨

昨年に引き続き4月に、タイでいつも私たちをお世話してくれるチナタッタさんが来日した。今回ご家族4人での訪日である。ラジャバト・プラナコーン大学の教授を昨年秋に退職し、今は週3日ぐらい大学であまりやりたくない仕事をしているらしい。4月13日の夜にゴミ・ゴメで都内で接待した。

この夏も8月にタイへ出かける。一緒に行きたい方は事務局まで連絡を。 (中込 卓男)



『ソイの奥から 2014』2

若林卓司

7月11日から初転法輪祭、入安居、さらに日曜日、振り替え休日と4連休になった。この連休を利用して、ポンティップ、お母さん、義妹のムアイ、それにネコのクリも含めてウタイタニーのシリポンさんを訪ねた。私の目的はいろいろあったが、昨年東京の二人の中込をリーダーとしたゴミ・ゴメグループがシリポンさんを訪れたとき、毎年行う地元の先生や学生に対しての環境教育を済まし、フーワイカーケーン野生動物保護区のカオバンダイからの帰り、シリポンさんの知り合いの元区長を訪ねた。



▲カオバンダイ カーケーン川



▲目の前で見ることができたマクジャク

その時ゴミ・ゴメの二人はこの元区長にカレン族の昔から栽培している野菜類や、最近作らなくなったものなどの質問をした。私はその時通訳をしたのだが、話の中で、この人が昔、カーケーン川の流域のカレンの部族に居たことを知った。その時ちょっと聞いた話では、若い時、そこに進出してきた共産主義者の活動に加わったということであった。あまり急押しして聞かなかったこともあって、私はこれは得難い証人に知り合えたこと喜んでいて。それでいつか、当時の話を聞きたいと思っていた。今回、シリポンさんに案内を頼んで。この元区長の話を聞いた。結局、共産主義者と行動をともにしていなかったのだが、聞いた話を以下に記しておく。



▲元区長さん メモを取る若林さん（左）

1974 年タークのウンパーンのほうから共産主義者が南下してきて、元区長の居た部落クラン・クライにきて、脅しをかけながら協力の有無を質した時、当時 20 ぐらいだったこの元区長のお父さんはその時区長をしていて、結局全集落の移動を決めたという。カーケーン川の流域にはカオバンダイを最北として 10 を超える部落があったというが、ある部落は共産側についたという。元区長らは今のイマーム・イサイに移って生活を始めたが、政府側についたとしても、「ケン・バーン」と呼ばれる防衛隊のようなものを組織させられたという。共産軍がフーワイカーケーン保護区の外にある部落を襲撃してきたからだ。カレンにとっては兄弟が戦うはめになったりしたので、本気にはなれなかっただろうが、共産軍と政府軍からの圧力はあっただろう。結局カレンに関しては双方に 2 人の死者がでたそうだ。この戦いは共産軍がジリ貧になり、1985 年に終結した。

聞き違いはないと思うが、この 1985 年はちょっとおかしいと思う。元区長は戦争は 7 年続いたと行っているのだから、1974 年に始まったとすれば 1981 年になるはずだ。その後、残って

いたカーケーン川沿いのカレンの集落はすべて立ち退きの目にあい、最南端のカオコダイチャー（以前はカオバンダイの別名だと思っていた）がシーナカリンダム建設で沈み、またそれ以外の地はフーワイカーケーン野生動物保護区に組み込まれてしまった。当時、共産側についたカレンの人は今、60 歳以上で、かなりの人が元区長がいる保護区の外にいくつかの部落に住んでいるはずなので、シリポンさんに骨を折ってもらって、もう少し、詳しく話を聞こうと思っている。



▲若林夫妻 大学の日本語を教えるスタッフルーム



▲2017/8/20 バンコク近郊の干潟で野鳥観察

